

○ 全体概要

実証対象技術／ 実証申請者	スポロジー・DN-100/SP-1 / 株式会社ダイナワン
実証機関	一般財団法人建材試験センター
実証試験期間	平成24年8月31日～平成25年3月11日

1. 実証対象技術の概要

建築物の屋上に保水性能を持つ建材を敷設する技術

※技術の特徴などの情報は、4.参考情報（概要版 12 ページ）を参照。

2. 実証試験の概要

2.1 基本性能

屋根・屋上用保水性建材の基本性能（保水性／吸水性／蒸発性）を測定し、その結果から、屋根・屋上用保水性建材を施工した場合の効果（屋上（屋根）表面温度低下量等）を数値計算により算出した。

2.1.1. 数値計算における設定条件

① 気象条件

表 2-1 気象条件

設定条件	内容
地域	・東京都、大阪府
気象データ	・気象庁気象観測データ（2005年） 東京都：東京管区気象台 大阪府：大阪管区気象台
期間	2005年7月18日～9月15日 (計算期間は8月1日～8月31日)

② 計算対象となるモデル

数値計算は、以下に示す材料構成を想定して行った。このとき、屋根・屋上用保水性建材施工により屋根・屋上面において生じる表面温度の低下及び蒸発に伴う潜熱量は、室内の空調負荷に影響を与えないものとみなして計算を行った。

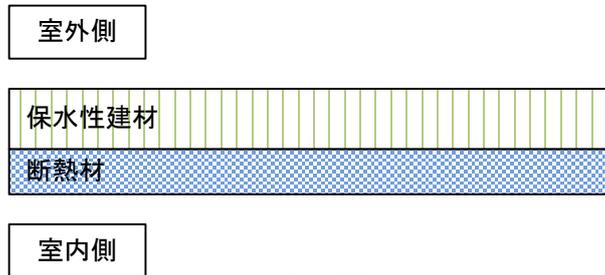


図 2-1 屋上（屋根）面の材料構成

2.2 環境負荷・維持管理等性能

試験体(100mm×100mm)4 体を一般財団法人建材試験センター中央試験所内の屋外に水平に設置して4か月（9月から1月）間の屋外暴露を行った後、詳細版本編 4.2.1 に規定する試験のうち(1)保水性及び(3)蒸発性の試験（詳細版本編 17・19 ページ参照）を行った。

3. 実証試験結果

3.1 基本及び環境負荷・維持管理等性能

3.1.1. 実証項目

(1) 保水性

項目	測定結果							
	屋外暴露試験前				屋外暴露試験後			
	No.1	No.2	No.3	No.4	No.1	No.2	No.3	No.4
絶乾質量 (g)	190.06	190.60	188.55	193.60	156.99	192.03	158.42	191.95
湿潤質量 (g)	261.85	256.07	276.49	255.66	286.55	298.93	292.08	304.14
絶乾密度* ¹ (平均値) (kg/m ³)	790				758			
保水量* ¹ (平均値) (g/cm ³)	0.30				0.52			

*1：試験体 4 体の平均値

(2) 吸水性

項目	測定結果* ¹			
	No.1	No.2	No.3	No.4
30 分後の吸い上げ質量 (g)	208.76	206.59	247.32	210.95
吸い上げ高さ(平均値) (%)	36			

*1：試験体 4 体の平均値

(3) 蒸発性

① 測定結果（風速 1m/s）

項目		屋外暴露試験前	屋外暴露試験後
蒸発効率	(-)	0.48	0.67
恒率蒸発期間*1	(h)	0	約 7
積算蒸発量	(g)	301	355
積算温度	(°C·hr)	199	220

② 測定結果（風速 3m/s）

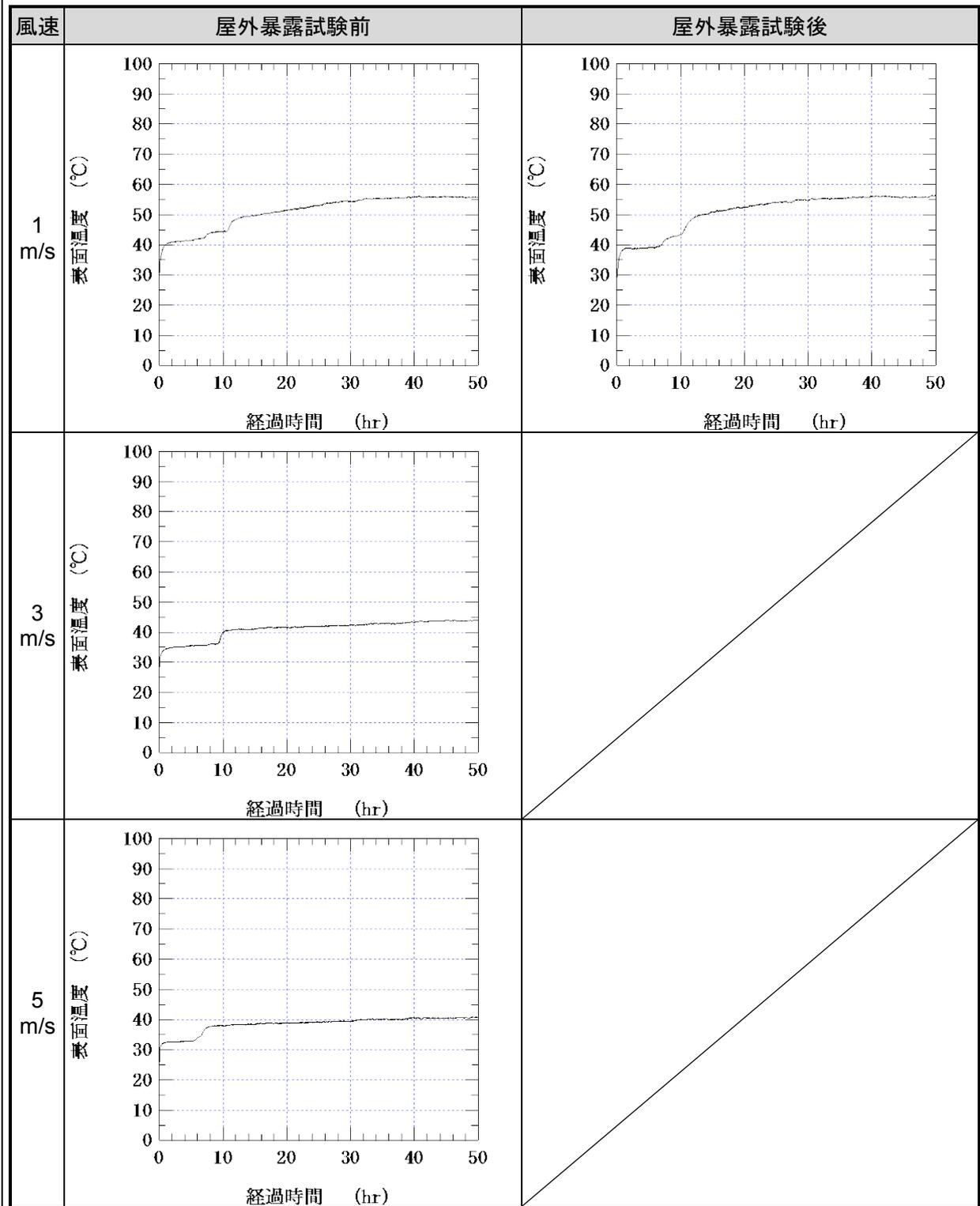
項目		屋外暴露試験前
蒸発効率	(-)	0.36
恒率蒸発期間*1	(h)	—
積算蒸発量	(g)	240
積算温度	(°C·hr)	—

③ 測定結果（風速 5m/s）

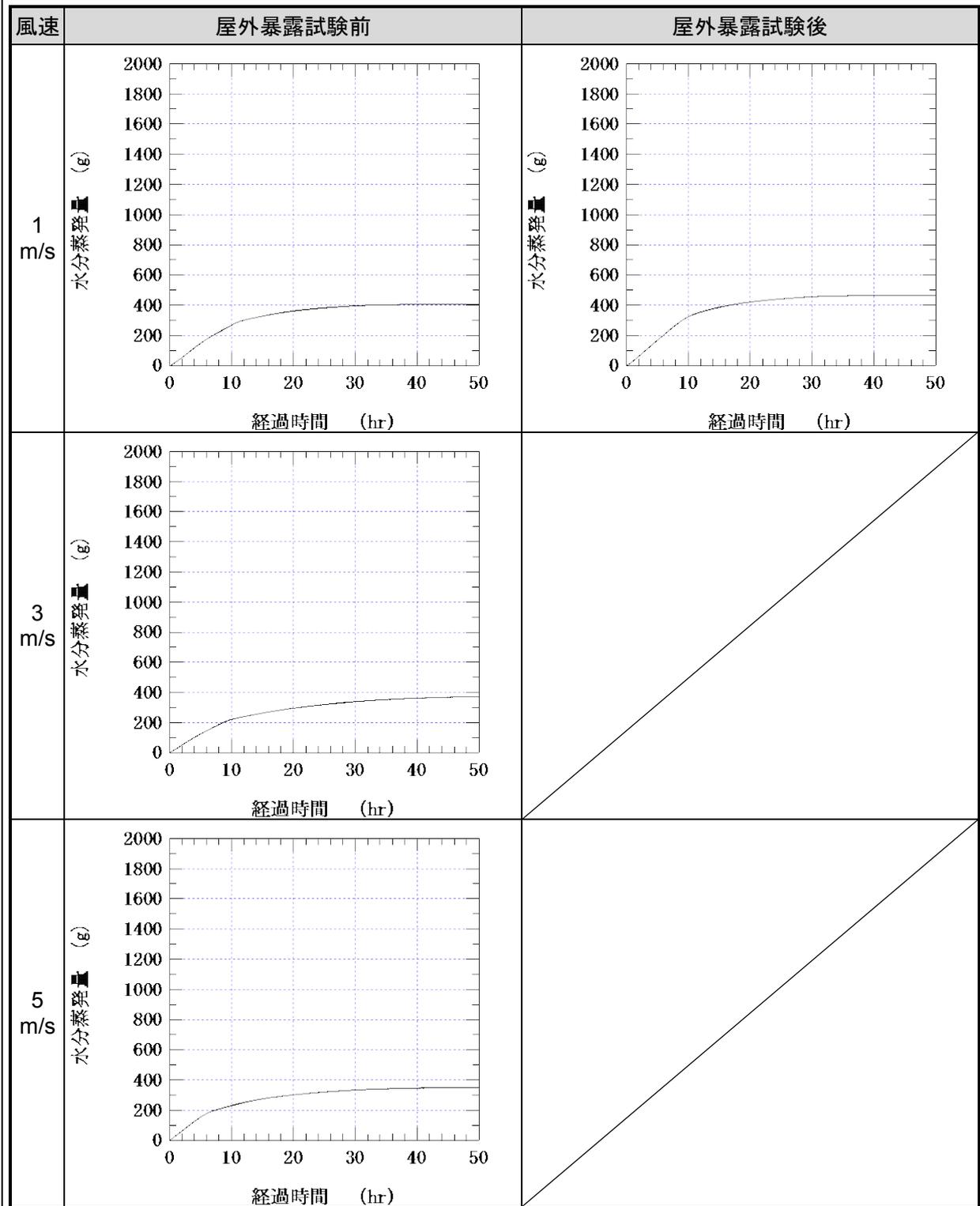
項目		屋外暴露試験前
蒸発効率	(-)	0.32
恒率蒸発期間*1	(h)	—
積算蒸発量	(g)	289
積算温度	(°C·hr)	—

*1：恒率蒸発期間は、測定データをグラフにプロットし、その結果から算出するものである。
 質量測定 of 風速による影響を考慮し、ここでは「およその値」として結果を示す（恒率蒸発期間の定義は、4.2.1(3)①（詳細版本編 19 ページ）に示す）。

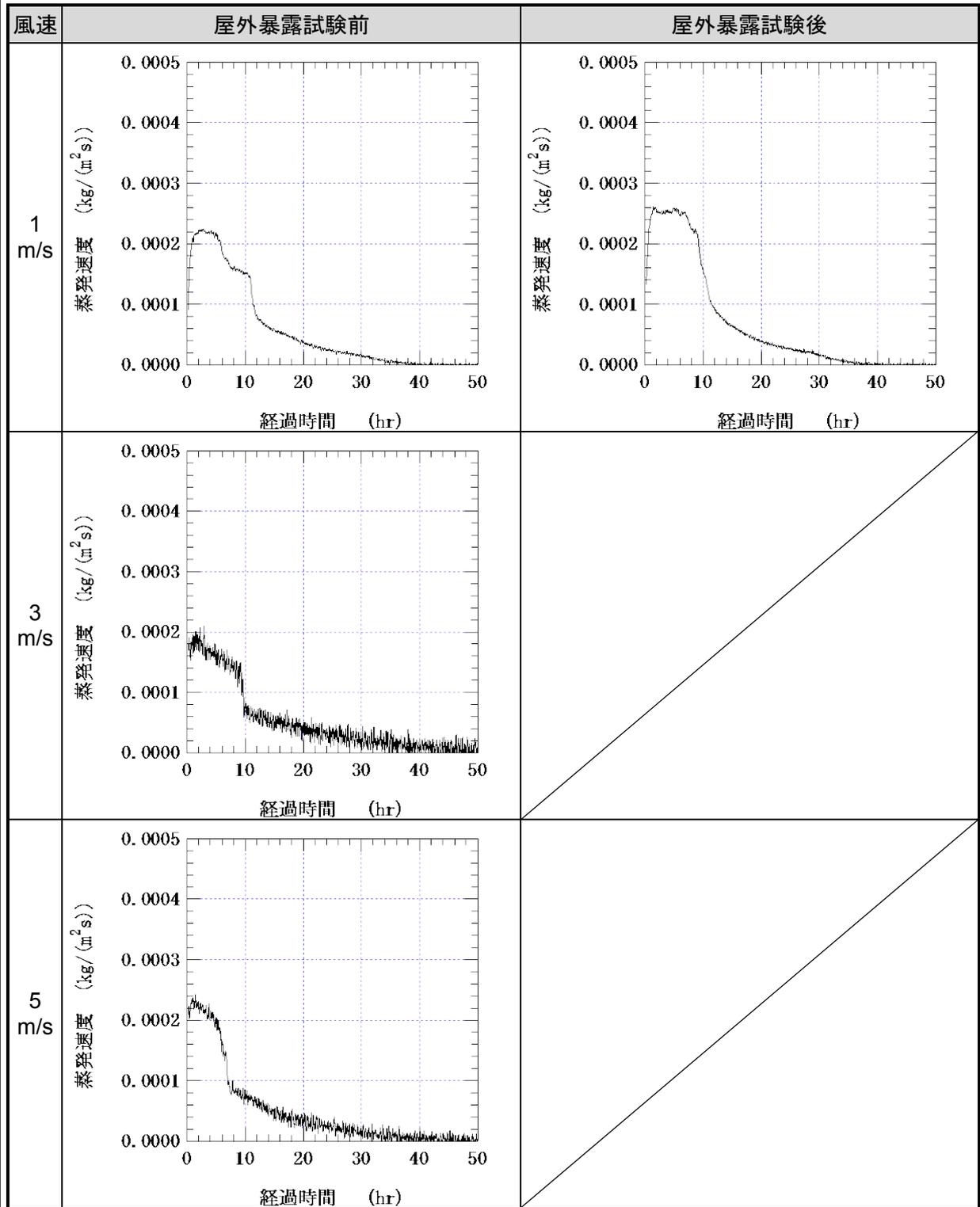
④ 表面温度と経過時間の関係



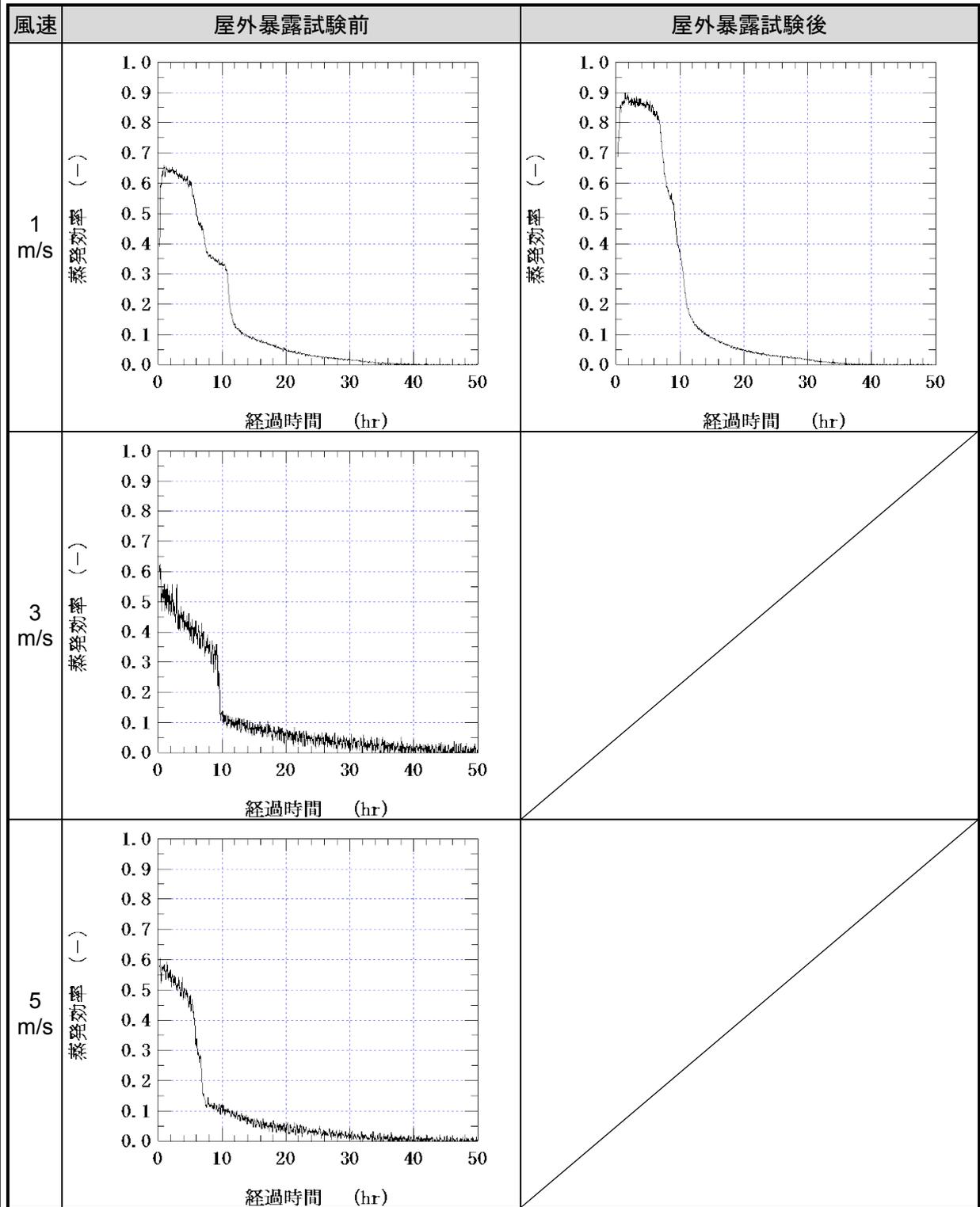
⑤ 水分蒸発量と経過時間の関係



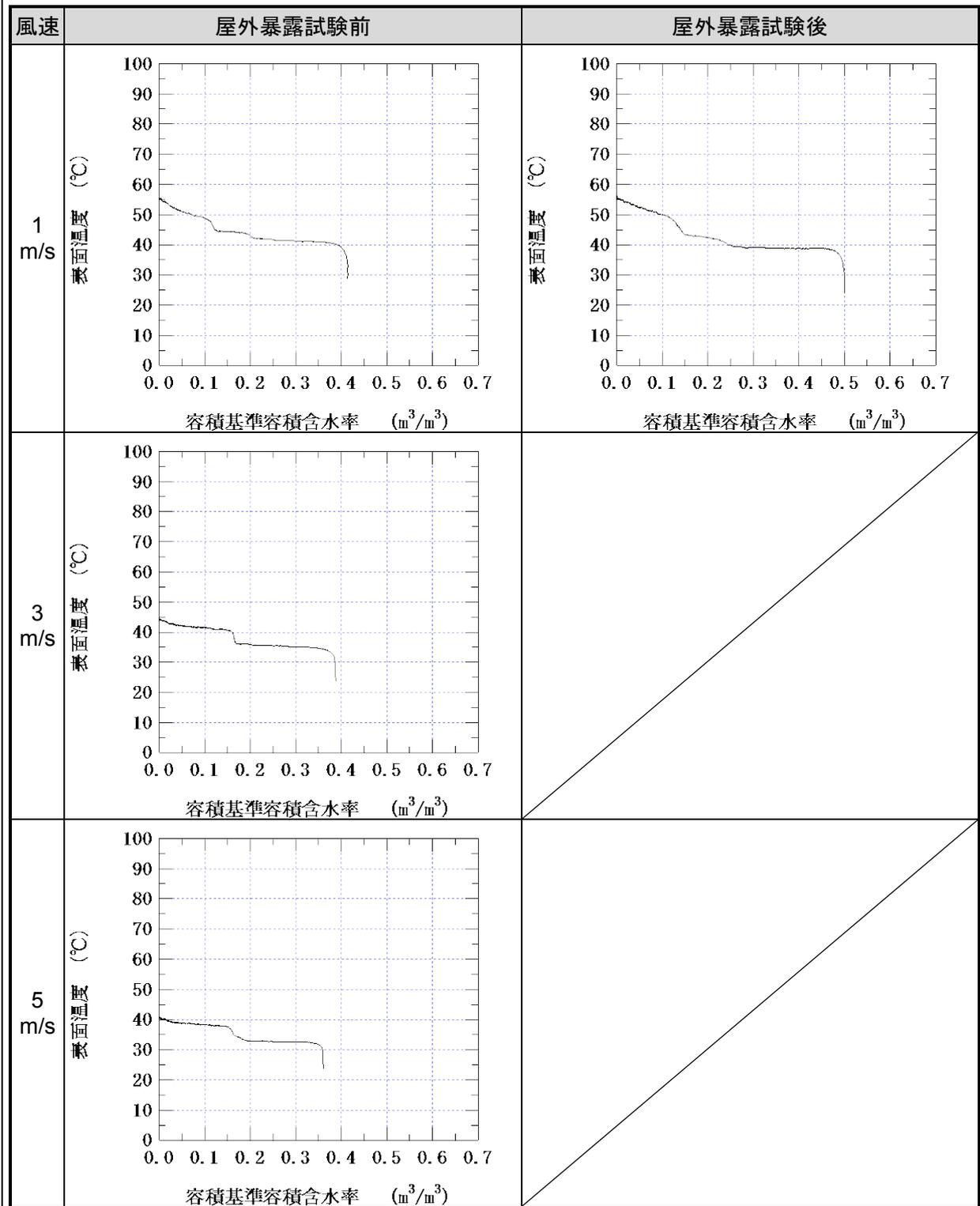
⑥ 蒸発速度と経過時間の関係



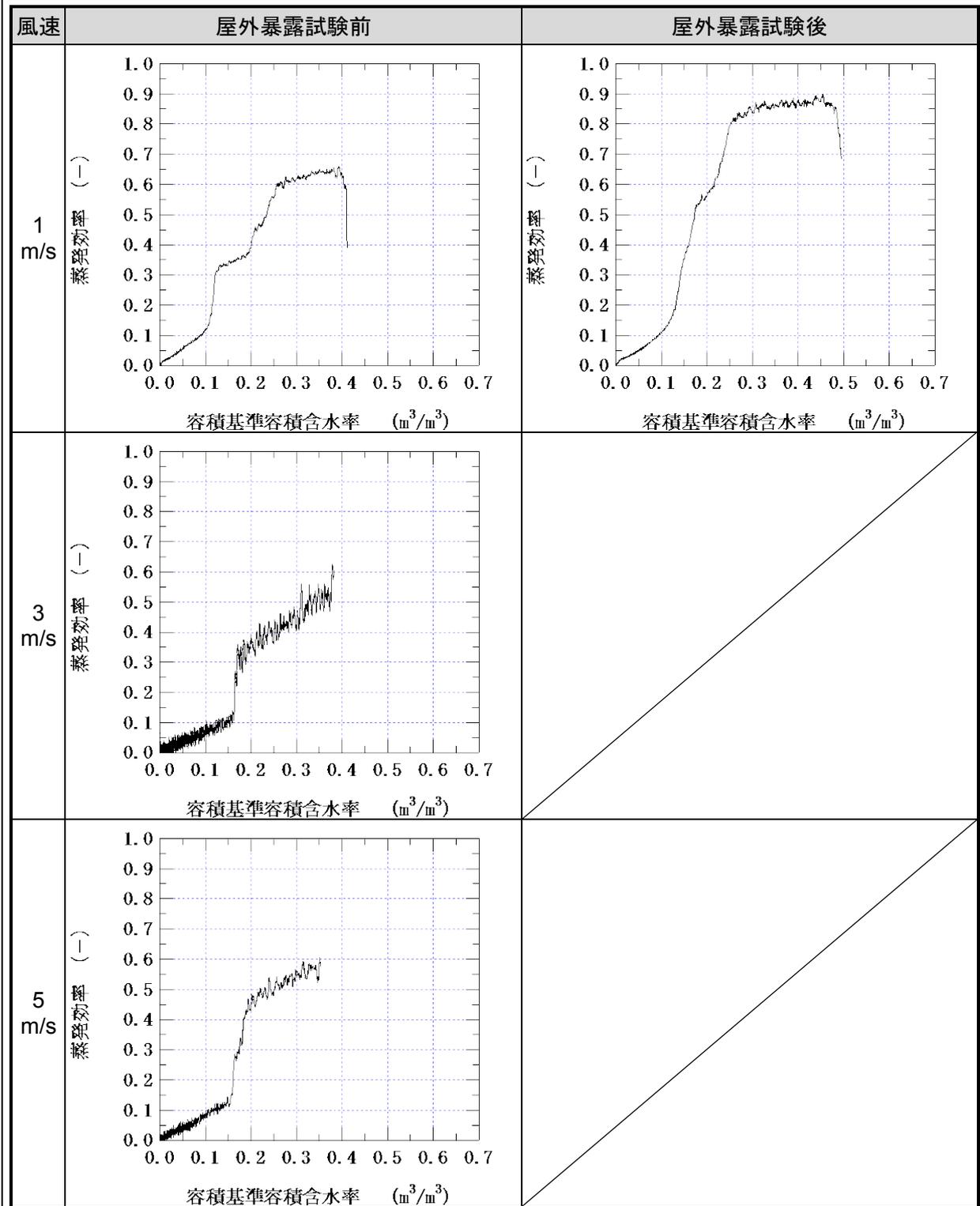
⑦ 蒸発効率と経過時間の関係



⑧ 表面温度と含水率の関係



⑨ 蒸発効率と含水率の関係



参考項目

(4) 熱伝導率

項目	測定結果	
	乾燥状態	湿潤状態
熱伝導率 [W/(m・K)]	0.185	0.258

(5) 日射反射率

項目	測定結果	
	乾燥状態	湿潤状態
日射反射率 (%)	28.6	26.8

(6) 比熱

項目	測定結果
比熱 [J/(g・K)]	1.10

(7) 含水率

項目	測定結果	
	屋外暴露試験前*1	屋外暴露試験後
絶乾密度 (kg/m ³)	790	758
質量基準質量含水率 (kg/kg)	0.377	0.703
容積基準質量含水率 (kg/m ³)	297	522
容積基準容積含水率 (m ³ /m ³)	0.297	0.524

*1：試験体 4 体の平均値

3.1.2. 数値計算により算出する実証項目

(1) 実証項目の計算結果（2005年8月1日～8月31日の時刻別平均値）

表面温度上昇抑制効果及び顕熱放散量抑制効果（図3-1～図3-4）

比較対象：一般的なコンクリートを表面に用いた場合

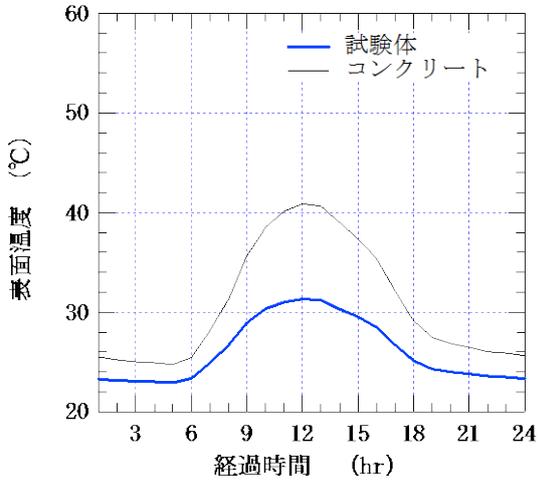


図 3-1 表面温度の経時変化（地域：東京）

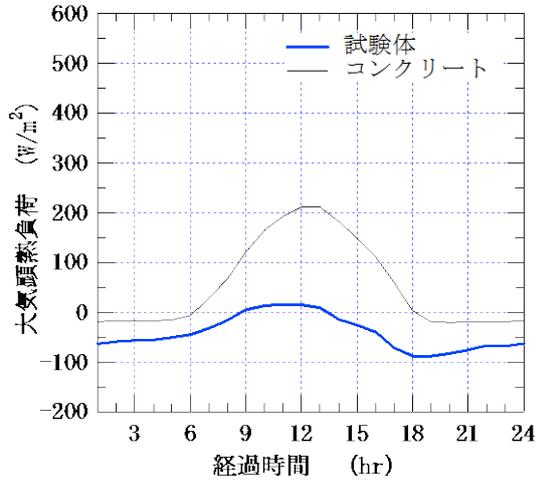


図 3-2 顕熱負荷の経時変化（地域：東京）

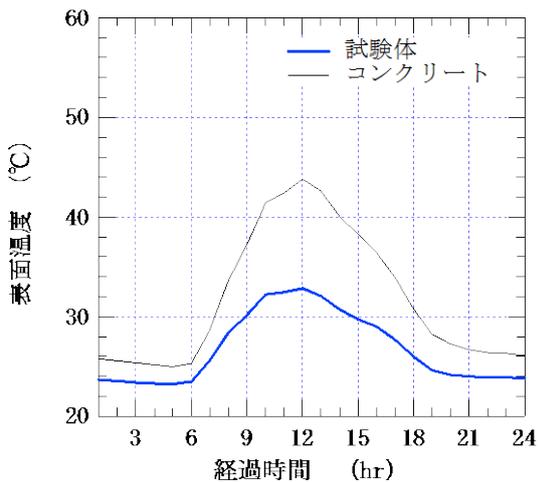


図 3-3 表面温度の経時変化（地域：大阪）

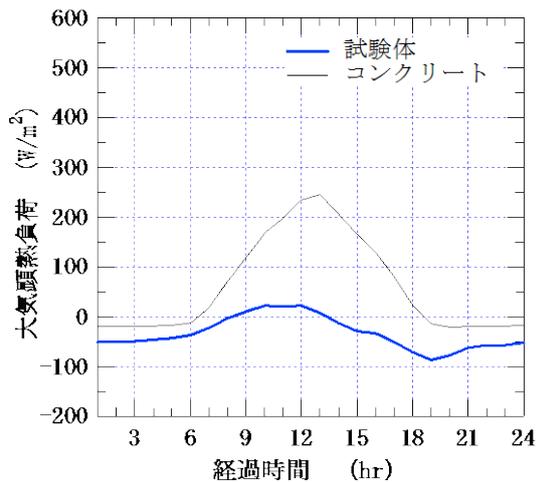


図 3-4 顕熱負荷の経時変化（地域：大阪）

(2) (1)実証項目の計算結果に関する注意点

- ① 数値計算は、夏季の7月18日～9月15日の期間において行い、8月1日～8月31日の時刻別平均値を算出したものである（年間を通じての計算は実施していない）。
- ② 屋根・屋上用保水性建材の性能値は、計算対象となる期間中変化しないものとした。ただし、熱伝導率、日射反射率は、絶乾状態の試験結果と湿潤状態の試験結果の平均値を用いることとし、蒸発効率及び含水率は、4.2.1(3)（詳細版本編 19 ページ）で行った試験結果のうち試験開始から 12 時間までの 1 時間ごとの値を平均したものとした。また、比熱は絶乾時の値と 12 時間の平均含水率との値から算出した。
- ③ 屋根・屋上用保水性建材施工により屋根・屋上面において生じる表面温度の低下及び蒸発に伴う潜熱量は、室内の空調負荷に影響を与えないものとみなして計算を行った。そのため、空調負荷低減に係る電力量計算等は実施しない。
- ④ 簡易計算では、実験条件に基づいて得られた一定の蒸発効率を与えて熱収支の計算を実施しているため、降雨がない状況が続く気象条件で材料が乾燥して蒸発量が少なくなる様子は再現できていない。簡易計算は、材料の保水状態が良い理想的な条件が続くと想定した場合の計算であり、蒸発による冷却効果が実際よりも大きく表現されている。

4. 参考情報

(1)実証対象技術の概要（参考情報）及び(2)その他メーカーからの情報（参考情報）に示された情報は、全て実証申請者が自らの責任において申請したものであり、環境省及び実証機関は、内容に関して一切の責任を負いません。

(1) 実証対象技術の概要（参考情報）

項目		実証申請者 記入欄	
実証申請者		株式会社ダイナワン (英文表記:DINAONE CORPORATION)	
技術開発企業名		品野セラミックタイル工業株式会社 (英文表記:SHINANO CERAMIC TILE INDUSTRY CO.,LTD)	
実証対象製品・名称		スポロジー (英文表記:SPOLOGY)	
実証対象製品・型番		DN-100/SP-1	
連絡先	TEL	03-6741-8003	
	FAX	03-4335-6700	
	Web アドレス	http://www.dinaone.co.jp	
	E-mail	kouji.murayama@lixil.co.jp	
技術の特徴		<p>65%程度のリサイクル原料及び珪藻土・粘土を使用した多孔質保水セラミック。</p> 	
設置条件	対応する建築物・部位など	オフィス・学校・工場・病院等の建物屋上。	
	施工上の留意点	材料特性上、材料厚みにバラツキが生じる。	
	その他設置場所等の制約条件	軽歩行が発生する場合にも適用可能。	
メンテナンスの必要性 耐候性・製品寿命など		瓦同様に約 1100℃で焼成された材料であり、屋上での利用を想定すると、瓦同等の耐候性を有するものとする。	
コスト概算		設計施工価格(材工共)	27,300 円 1m ² あたり

(2) その他メーカーからの情報（参考情報）

--